

建築物の構造概論
給水及び排水の管理
清 掃
ねずみ、昆虫等の防除

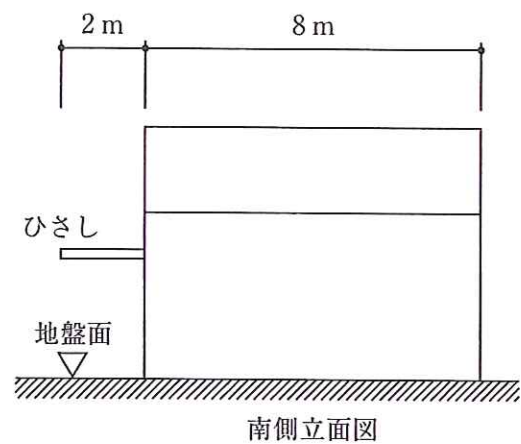
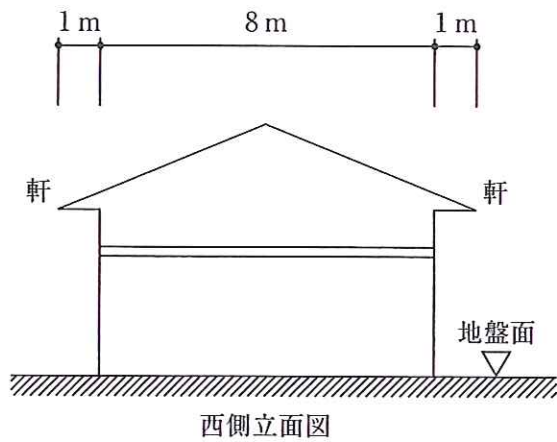
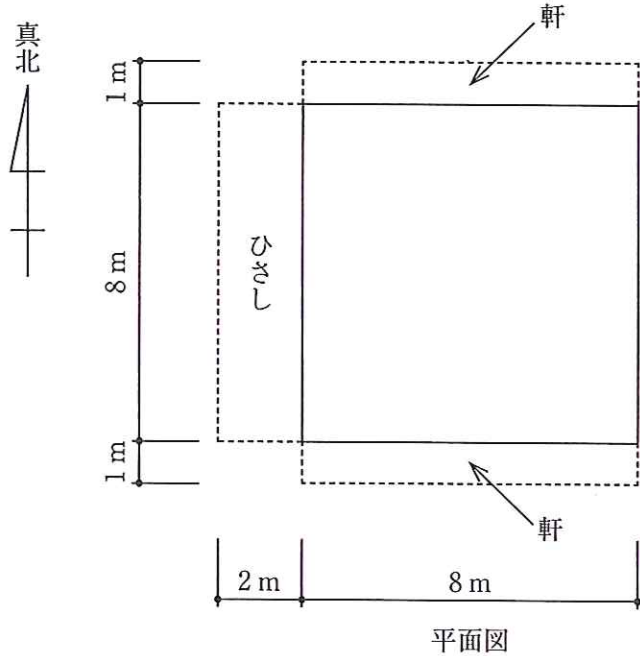
問題 91 熱の伝わり方に関する次の文章の 内に入る語句の組合せとして、最も適当なもの
のはどれか。

熱の伝わり方には、伝導、対流、放射の3つの形態がある。壁や床材のような固体中は ア により熱が伝わる。壁から外部空間に対しては イ 、 ウ により熱が伝達される。建築物のすき間においては、すき間風を通じて、主として ウ により熱が伝わる。

- | | ア | イ | ウ |
|-----|----|----|----|
| (1) | 伝導 | 対流 | 放射 |
| (2) | 伝導 | 放射 | 対流 |
| (3) | 対流 | 伝導 | 放射 |
| (4) | 対流 | 放射 | 伝導 |
| (5) | 放射 | 対流 | 伝導 |

問題 92 下の図のような平屋建の建築物の建築面積として、建築基準法上、最も近いものは、次のうちどれか。ただし、国土交通大臣が高い開放性を有すると認めて指定する構造の部分はないものとする。

- (1) 64 m²
- (2) 72 m²
- (3) 80 m²
- (4) 88 m²
- (5) 100 m²



問題 93 建築物の設計図書（意匠図面）に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 日影図は、夏至における日照状況を描く。
- (2) 断面図は、建築物の垂直断面を投影した図で、一般に2面以上作成する。
- (3) 配置図は、建築物と敷地の関係を示した図で、外構計画などをあわせて示すこともある。
- (4) 矩形図^{かなばかり}は、建築物と地盤、垂直方向の各部寸法の基準や基準詳細を示す。
- (5) 仕様書は、工法や仕様材料の種別・等級・方法・メーカー等を指示した文書である。

問題 94 建築の計画に関する次の用語の組合せのうち、最も関係が少ないものはどれか。

- (1) レンタブル比 ————— 貸事務所ビル
- (2) CASBEE ————— 建築物の耐火性能評価
- (3) バリアフリー ————— 傾斜路
- (4) フリーアクセスフロア ——— 二重床
- (5) 積算書 ————— 設計図書

問題 95 鉄筋とコンクリートに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鉄筋コンクリート構造の梁^{はり}に設備配管のために設けられた開孔部の径は、一般に、梁せいの1/3以下とする。
- (2) 鉄筋コンクリート構造の柱の帯筋の間隔は、10 cm 以下とする。
- (3) 捨てコンクリートは、地盤の上に底面を平らにする目的で敷きならしたコンクリートである。
- (4) 鉄筋とコンクリート表面との距離を鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さという。
- (5) 鉄筋コンクリート構造の耐震壁の厚さは、10 cm 程度である。

問題 96 鉄骨構造に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鉄骨構造の現場での接合方法は、近年では、ほとんどが溶接接合である。
- (2) 鉄骨構造は、じん性に富み、耐震的に有利な構造にしやすい。
- (3) 鉄骨構造の溶接接合には、一般にアーク溶接が用いられる。
- (4) 鉄骨構造は、部材の接合によりラーメン構造、トラス構造等に大別できる。
- (5) 鉄骨構造や鉄筋コンクリート構造等、異なった構造の長所を生かして組み合わせたものを混合構造という。

問題 97 建築物の荷重あるいは外力に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 固定荷重には、人間・家具等の重量が含まれる。
- (2) 応力には、曲げモーメント、せん断力及び軸方向力がある。
- (3) 水平荷重には、風圧力、地震力、土圧等がある。
- (4) 積雪荷重は、屋根こう配に影響される。
- (5) 積雪荷重は作用時間により、常時荷重（長期）又は非常時荷重（短期）に分類される。

問題 98 建築物及び建築物の構造に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鉄筋コンクリート構造の事務所建築の法定耐用年数は、50年である。
- (2) 既存不適格建築物とは、法が適用された時点で既に存在していた建築物のうち、その後の改正規定に適合していない建築物をいう。
- (3) コンクリートの中性化は、構造体の寿命に大きく影響を与える。
- (4) 制振構造とは、地震力による揺れを建築物の上部構造に伝達しないように構造体の揺れを低減する構造である。
- (5) 耐震診断は、構造体や仕上げ材、設備等に関する諸基準、指針等に基づいて行われる。

問題 99 建築材料及び部材の性質に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) モルタルとは、セメントと水と砂の混合物である。
- (2) 鉄筋の熱膨張係数は、コンクリートとほぼ等しい。
- (3) プラスタとは、無機質の粉に水を加えて練り混ぜ、塗壁とする材料の総称である。
- (4) カーテンウォールは、建築物の耐力壁として使用される。
- (5) 板ガラスは、部分的に加熱されると破壊しやすい。

問題 100 建築生産に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 地球環境に配慮した環境負荷を軽減する建築生産が、今後の重要な課題である。
- (2) 請負形式には、一式請負（一括）、分割請負（分離）、ジョイントベンチャー（共同企業体）がある。
- (3) 建築生産は、一般の製造業と異なり、見込み生産がほとんどである。
- (4) 工事監理は、設計者が建築主の委託を受けて代行する場合が多い。
- (5) 建築主は、施工業者と請負契約を締結し、施工を依頼する。

問題 101 輸送設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) JIS規格に定める積載荷重が900kgのエレベータの最大定員は、13人である。
- (2) エスカレータの輸送能力は、公称能力の65～85%で計算する。
- (3) エレベータは、大きく分けてロープ式と油圧式に分かれる。
- (4) エレベータに使用される巻上電動機には、交流式と直流式がある。
- (5) ロープ式エレベータは、低層建築物の使用に限定される。

問題 102 建築基準法に基づく建築物の防火・避難に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 特殊建築物はその用途・規模等によって、耐火建築物又は準耐火建築物にしなければならない。
- (2) 劇場における客席からの出口の戸は、内開きとしてはならない。
- (3) 高さ 31 m を超える建築物には、原則として非常用エレベータを設置する。
- (4) 建築物の避難階以外の階の居室から避難階又は地上に直通する階段を直通階段という。
- (5) 建築物の周囲において発生する通常の火災による延焼を抑制するために当該外壁又は軒裏に必要とされる性能を耐火性能という。

問題 103 自動火災報知器に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 光電式煙感知器は、煙による光の散乱又は減衰を検出して作動する。
- (2) イオン式煙感知器は、煙によるイオン電流の変化を検出して作動する。
- (3) 炎感知器は、火災時の炎から放射される紫外線や赤外線が強度が一定以上になると作動する。
- (4) 差動式熱感知器は、感知器の周辺温度が定められた一定温度以上になると作動する。
- (5) 煙感知器は熱感知器に比べて、火災の早期感知に適している。

問題 104 建築基準法に定める「主要構造部」として、最も不適当なものは次のうちどれか。

- (1) 間仕切壁
- (2) 柱
- (3) 床
- (4) 屋根
- (5) 階段

問題 105 建築基準法に基づく特殊建築物の定期調査・報告に関する次の組合せのうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 調査内容 ————— 建築物の敷地、構造及び建築設備に関する状況
- (2) 調査資格者 ————— 一級建築士、二級建築士、特殊建築物等調査資格者
- (3) 報告先 ————— 国土交通省
- (4) 報告者 ————— 建築物の所有者又は管理者
- (5) 報告間隔 ————— おおむね 6 カ月から 3 年までの間隔

問題 106 給水及び排水の管理に関する用語とその単位との組合せとして、最も不適当なものは次のうちどれか。

- (1) ばっ気槽混合液浮遊物質濃度 (MLSS) ————— %
- (2) 排水基準におけるリン含有量 ————— mg/L
- (3) 水の密度 ————— kg/m³
- (4) 化学的酸素要求量 ————— mg/L
- (5) BOD 負荷量 ————— g/(人・日)

問題 107 給水及び排水の管理に関する用語の説明として、最も不適当なものは次のうちどれか。

- (1) 水槽照度率 ————— 水槽内照度と水槽外照度との比をいう。
- (2) 逃し通気管 ————— 排水系統内の下水ガスによる臭気を逃がすために設ける通気管をいう。
- (3) あふれ縁 ————— 衛生器具又はその他の水使用機器の上縁において、水があふれ出る部分の最下端をいう。
- (4) 逆圧 ————— 正常な流れや圧力伝搬の状態とは逆の方向に作用する圧力をいう。
- (5) オフセット ————— 配管経路を平行移動する目的で、エルボ又はベンド継手で構成されている移行部分をいう。

問題 108 給水設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) ポンプの防振を必要とする場合は、振動が他の部分に伝播しないように、ポンプの吸込口側、吐出口側に防振継手を取り付ける。
- (2) 吸排気弁は、給水管内の空気の排出と給水管内が負圧になった場合の逆流防止のため設置する。
- (3) 枝管の分岐は、上方に給水する場合には下取り出しとする。
- (4) ポンプ直送方式は、受水槽に貯留した水を加圧ポンプで必要箇所へ直接給水する方式である。
- (5) 給水立て主管から各階への分岐管には、分岐点に近接した部分で、かつ、操作を容易に行うことができる部分に止水弁を設ける。

問題 109 飲料水の配管材料として、最も不適当なものは次のうちどれか。

- (1) ポリエチレン粉体ライニング鋼管
- (2) 亜鉛めっき鋼管
- (3) 銅管
- (4) ステンレス鋼管
- (5) 硬質ポリ塩化ビニル管

問題 110 給水方式に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 高置水槽方式の揚水ポンプの起動・停止は、高置水槽の水位で行う。
- (2) 圧力水槽方式は、水の使用により圧力水槽の圧力が低下すると、ポンプが起動し、一定圧力になると停止するように制御されている。
- (3) 受水槽方式の揚水ポンプの空転防止は、受水槽の定水位弁停止と同じ水位で行う。
- (4) 直結増圧方式は、増圧ポンプを設け、水圧を高くして中高層の建築物に適用できるようにした方法である。
- (5) ポンプ直送方式では、一般に小流量時のポンプの起動・停止の頻度を少なくするための小型圧力水槽を設けている。

問題 111 給水設備における環境保全の配慮に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 衛生器具による節水として、小便器自動感知洗浄システムがある。
- (2) 洗落とし式便器は、最大瞬時流量を多くして、早く汚物を器外に押出すことにより節水を図っている。
- (3) 水資源の有効利用として、雨水を便器洗浄水として利用する。
- (4) 異種金属の配管を接続すると急激に腐食するおそれがあるので、異種金属を絶縁する必要がある。
- (5) 搬送動力の低減として、受水槽を地下階に設置する。

問題 112 ウォータハンマに関する次の文章の 内に入る語句の組合せとして、最も適切なものはどれか。

ウォータハンマは、弁を急激に閉じると、管内の水の流れが阻止されて閉じた点の ア の水圧が急激に イ し、そのとき生じる ウ が、配管系内に一定速度で伝わる現象をいう。

- | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| | ア | | イ | | ウ |
| (1) | 上流側 | ——— | 上昇 | ——— | 圧力波 |
| (2) | 上流側 | ——— | 下降 | ——— | 圧力波 |
| (3) | 上流側 | ——— | 下降 | ——— | 振動 |
| (4) | 下流側 | ——— | 上昇 | ——— | 圧力波 |
| (5) | 下流側 | ——— | 下降 | ——— | 振動 |

問題 113 水質基準に関する省令（平成 15 年厚生労働省令第 101 号）に定める基準として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 一般細菌は、1 mL の検水で形成される集落数が 100 以下であること。
- (2) 鉛及びその化合物は、鉛の量に関して、0.01 mg/L 以下であること。
- (3) カルシウム、マグネシウム等（硬度）は、300 mg/L 以下であること。
- (4) 銅及びその化合物は、銅の量に関して、10 mg/L 以下であること。
- (5) 総トリハロメタンは、0.1 mg/L 以下であること。

問題 114 塩素消毒の特徴に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 塩素消毒は、水道水では水系感染の予防のために行うものである。
- (2) 塩素消毒の効果は、懸濁物質が存在すると低下する。
- (3) 微生物を不活化するための消毒剤の濃度と接触時間の関係は比例する。
- (4) 特定の物質と反応して臭気を強めることがある。
- (5) 有害な有機塩素化合物が副生成されることがある。

問題 115 空気調和設備等の維持管理及び清掃等に係わる技術上の基準（平成 15 年厚生労働省告示第 119 号）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 貯水槽の清掃終了後、塩素剤を用いて 2 回以上の消毒を行う。
- (2) 消毒終了後は、消毒に用いた塩素剤を完全に排除するとともに貯水槽内に立ち入らないこと。
- (3) 貯水槽清掃後の水張り終了後、水質検査における色度は、5 度以下とする。
- (4) 清掃によって生じた汚泥等の廃棄物は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、下水道法等の規定に基づき適切に処理する。
- (5) 貯水槽清掃終了後の水質検査基準として、給水栓における水に含まれる結合残留塩素の含有率は、百万分の 0.2 以上とする。

問題 116 給湯設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 部分負荷を考慮し、エネルギー利用効率の高い熱源機器を採用する。
- (2) 中央式給湯設備の場合の給湯温度は、ピーク使用時においても 55℃以上が望ましい。
- (3) 給湯配管系統の圧力の高い箇所は、湯に溶け込んでいた空気が分離しやすい。
- (4) 間接加熱方式とは、高温の温水を熱源として、加熱コイルによって給湯用の水を加熱する方式である。
- (5) 事務所の用途に使用する建築物において、給湯量の設計値は、10 L/(人・日)程度である。

問題 117 給湯設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 湯をポンプでくみ上げる場合、吸い上げることのできる高さは、温度が高いほど低くなる。
- (2) 排水から熱回収する場合は、給湯の汚染を防ぐために間接的に行う。
- (3) 給湯設備における金属材料の腐食は、給水設備において使用される同じ金属材料に比較して腐食速度が速い。
- (4) 加熱装置から膨張管（逃し管）を立ち上げる場合には、補給水槽の水面の高さまで立ち上げる。
- (5) 中央式給湯方式に設置する循環ポンプは、一般に末端の給湯栓を開いた場合にすぐに熱い湯が出るように設ける。

問題 118 給湯設備に使用される加熱装置に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) ガス瞬間湯沸器は、ふろ用の追い焚き機能を付加したものがある。
- (2) 真空式温水発生機は、加熱用ヒータ、温度調節装置、密閉式貯湯槽、減圧弁及び逃し弁で構成されている。
- (3) ガスマルチ式給湯機は、瞬間湯沸器を多数連結したもので、業務用の給湯が可能である。
- (4) ヒートポンプは、排熱回収用の給湯熱源機器として使用される。
- (5) 貯蔵式湯沸器は、90℃以上の高温湯が得られ、飲用として利用される。

問題 119 給湯設備の保守管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 器具のワッシャには、細菌の繁殖を防止するために合成ゴムを使用する。
- (2) 湯水を均等に循環させるため用いる弁は、仕切弁でなく玉型弁とする。
- (3) 各配管に給湯水を均等に循環させるためには、給湯往管に設けられている弁の開度調整を行う。
- (4) 膨張水槽の清掃作業者は、高圧洗浄時などのエアロゾル発生によるレジオネラ感染対策としてマスクを着用する。
- (5) 逃し弁は1カ月に1回、レバーハンドルを操作させて作動を確認する。

問題 120 加熱装置に関する次の文章の 内に入る語句の組合せのうち、最も適当なものはどれか。

労働安全衛生法の規定に基づく、小型圧力容器以外の第一種圧力容器に該当する貯湯槽は、 ア 以内ごとに1回、定期的に自主検査を行い、 イ 以内ごとに1回、労働基準監督署の性能検査を受けなければならない。第二種圧力容器に該当するものは、 ウ 以内ごとに1回、定期自主検査を行わなければならない。

- | | ア | | イ | | ウ |
|-----|-----|----|-----|----|----|
| (1) | 1カ月 | —— | 6カ月 | —— | 1年 |
| (2) | 1カ月 | —— | 1年 | —— | 1年 |
| (3) | 6カ月 | —— | 6カ月 | —— | 1年 |
| (4) | 6カ月 | —— | 1年 | —— | 3年 |
| (5) | 6カ月 | —— | 3年 | —— | 3年 |

問題 121 給湯設備の腐食に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 金属管を用いた場合、循環量が多いと返湯管において管内流速が速くなり腐食の原因となる。
- (2) ステンレス鋼のうち SUS 444 の貯湯槽には、電気防食を施してはならない。
- (3) 流電陽極式電気防食では、犠牲陽極が消耗するため取り換えが必要である。
- (4) 外部電源式電気防食は、電流密度の調整など定期的保守が必要である。
- (5) ステンレス鋼のうち SUS 304 は、耐孔食性、耐隙間腐食性が SUS 444 に比較して優れている。

問題 122 排水通気設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 雨水ますの流出管は、流入管よりも管底を 20 mm 程度下げて設ける。
- (2) 排水槽には吸込みピットを設け、吸込みピットに向かって 1/100 以上のこう配を設ける。
- (3) 自然流下式の排水横管のこう配は、管内流速が 0.6 ~ 1.5 m/s となるようにする。
- (4) 通気立て管の上部は、最高位の衛生器具のあふれ縁から 150 mm 以上高い位置で、伸頂通気管に接続する。
- (5) 排水横管が 45° を超える角度で方向を変える箇所では、掃除口を設置する。

問題 123 排水トラップに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 脚断面積比（流出脚断面積／流入脚断面積）が大きいほど、封水強度は大きい。
- (2) 封水により、排水管内の臭気や衛生害虫の移動を防止できる構造とする。
- (3) わんトラップは、管トラップに比べてサイホン作用を起こしやすい。
- (4) 誘導サイホン作用とは、他の器具の排水によって排水管内に圧力変動を生じ、封水が応答して振動し、負圧によって排水管側に封水が吸引され、損失する現象をいう。
- (5) 自己サイホン作用とは、器具排水管を満流で流れるときに、サイホンの原理によってトラップ内の封水が引かれ、残留封水が少なくなる現象をいう。

問題 124 排水通気設備に関する語句の組合せとして、最も不適当なものは次のうちどれか。

- (1) 伸頂通気管 ————— 特殊継手排水システム
- (2) 間接排水 ————— 排水口開放
- (3) ルーフドレン ————— コーナ型ストレーナ
- (4) グリース阻集器 ————— バスケット
- (5) 通気弁 ————— 通気管内の正圧防止

問題 125 排水通気設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 排水槽の底部こう配面には、点検歩行を容易にするため階段を設ける。
- (2) 排水ポンプは、排水槽の周囲の壁面などから 200 mm 以上離して設置する。
- (3) 雨水ますには、インバートを設けて円滑に排水させる。
- (4) 管径 75 mm の排水横管のこう配は、1/100 以上とする。
- (5) 管径 100 mm 以下の排水管の掃除口は、15 m 以内に設置する。

問題 126 排水通気設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) ループ通気管は、最上流の器具排水管が排水横枝管に接続する位置のすぐ下流から立ち上げて、通気立て管などに接続する。
- (2) ブランチ間隔が 3 以上で、ループ通気方式とする場合は、通気立て管を設置する。
- (3) 特殊継手排水システムは、集合住宅やホテルの排水配管に多く用いられている。
- (4) 排水立て管のオフセット部の近くに排水横枝管を設ける場合は、オフセット部の上下 500 mm 以内に設置する。
- (5) 屋上などを庭園、物干し場等に使用する場合、通気管は 2 m 以上立ち上げた位置で開口する。

問題 127 排水通気設備の保守管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 排水槽の清掃は、建築物環境衛生管理基準に基づき1年以内ごとに1回行う。
- (2) 敷地排水管の清掃に利用するロッド法は、1～1.8mのロッドをつなぎ合わせ、手動で排水管内に挿入して清掃する方法である。
- (3) 排水槽内でのスカムなどの固着化を防止するために、ばっ気攪拌装置^{かくはん}を設ける。
- (4) 水中ポンプのメカニカルシールは、1～2年に1回程度交換を行う。
- (5) 掃除口には、容易にはずせるようにネジ部にグリースを塗っておく。

問題 128 排水通気設備の保守管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 通気管や通気弁は、1年に1回程度定期的に系統ごとに異常がないか点検する。
- (2) スネークワイヤを用いた清掃方法は、管内の硬い付着物を除去するのに有効である。
- (3) 高圧洗浄方法は、高圧の水の噴射力を利用して洗浄しながら管内の土砂や汚物等を除去する方法である。
- (4) 排水ポンプは、6カ月に1回程度絶縁抵抗の測定を行う。
- (5) ちゅう房排水槽は、電極棒を使用すると排水中の固形物が付着したりして誤作動を起こすので、フロートスイッチなどを用いる。

問題 129 衛生器具設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 吹上式水飲み器の噴水頭は必ず斜角吹上式とし、噴水頭に直接口が触れないよう保護囲いを設ける。
- (2) 上質水供給設備の目的は、トリハロメタンなどの有害物質を取り除くこと、あるいはミネラル成分の調整を行うことである。
- (3) 大便器洗浄弁は逆流を防止するため、バキュームブレーカを必ず取り付け。
- (4) 小便器洗浄弁は、使用後人為的な操作により洗浄でき、公衆用に適している。
- (5) 温水洗浄式便座には、飲用に適した水を用いる。

問題 130 衛生器具設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものは次のどれか。

- (1) 浄化槽を設置している場合を除き陶器製の大便器の底部の汚れは、スポンジに塩酸系洗剤を付けて洗い落とし、十分に水洗いする。
- (2) 事務所建築物に設置する配管ユニットには、給水管、排水管、通気管等の配管群が組み込まれている。
- (3) 衛生器具設備をユニット化すると、防水処理工事や養生作業が軽減される。
- (4) 衛生器具の材質は平滑な表面をもち、吸水・吸湿性がないものとする。
- (5) 事務所建築物に設置する大・小便器の必要器具数は、建築物における衛生的環境の確保に関する法律で定められている。

問題 131 給排水衛生設備に使用する機器及び配管材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) メカニカル形接合は、ねじ込み、溶接、接着等によらない機械的な接合方法である。
- (2) 差込ろう接合は、継手の受け口と管のすき間に毛細管現象で、ろう材を流し込む接合方法である。
- (3) TIG 溶接は、不活性ガスの雰囲気中で、タングステン電極と溶接母材の間にアークを発生させて溶接する方法である。
- (4) 通気管の大気開口部に設ける通気口の通気率（開口面積／管内断面積）は、50 %程度確保する必要がある。
- (5) ボール弁は、管軸と通路が一致したときが全開で、それと 90°回転した状態が閉止となる。

問題 132 雑用水設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 雨水処理において、消毒装置は雨水貯留槽の上流側に設置する。
- (2) 地区循環方式は、比較的まとまった複数の建築物において、処理水を便器洗浄などの雑用水に利用する方式である。
- (3) 竣工時に着色水を用い通水試験を行い、上水系統の配管と誤接合がないことを確認する。
- (4) 雑用水受水槽は、六面点検ができるように設置することが望ましい。
- (5) 雑用水は、洗面器、手洗い器等、誤飲・誤用のおそれのある器具に連結しない。

問題 133 散水、修景又は清掃の用に供する雑用水の水質基準項目とその基準との組合せとして、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 大腸菌 ————— 100 CFU/mL 以下であること
- (2) 臭気 ————— 異常でないこと
- (3) 外観 ————— ほとんど無色、透明であること
- (4) pH ————— 5.8 以上 8.6 以下であること
- (5) 濁度 ————— 2 度以下であること

問題 134 建築物における衛生的環境の確保に関する法律に基づく特定建築物に設置される雑用水設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 雑用水の配管は、上水管と異なる識別色で塗装する。
- (2) 散水、修景又は清掃の用に供する雑用水は、し尿を含む水を原水として利用しない。
- (3) 排水再利用水及び雨水等を原水とする雑用水受水槽は、上水の補給装置を設ける。
- (4) 雨水利用設備から発生した汚泥は、一般廃棄物として扱う。
- (5) 水栓には、雑用水であることを表示する。

問題 135 次の水処理方法のうち、浄化槽に適用されていないものはどれか。

- (1) 接触ばっ気法
- (2) 散水ろ床法
- (3) 活性汚泥法
- (4) 逆浸透膜法
- (5) 担体流動法

問題 136 浄化槽法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 第1回目の保守点検は、浄化槽の使用を開始する直前に行う。
- (2) 浄化槽管理者は、浄化槽の使用を開始後6カ月を経過した日から3カ月間に、指定検査機関の行う水質に関する検査を受けなければならない。
- (3) 保守点検については、登録を受けた浄化槽保守点検業者（登録制度が設けられていない場合は浄化槽管理士）に委託することができる。
- (4) 保守点検と清掃の作業内容の記録を作成し、3年間保存しなければならない。
- (5) 浄化槽の維持管理作業は、保守点検の技術上の基準に示されている。

問題 137 消火設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 連結散水設備は、消火活動が困難な地下街に設置される。
- (2) 消火器は、床からの高さが1.5 m以下で、凍結・変質のおそれがない箇所に設置する。
- (3) 閉鎖型乾式スプリンクラー設備は、アラーム弁の2次側に圧縮空気を充填したもので、寒冷地に適している。
- (4) 消防用設備等に付置される動力消防ポンプ設備は、6カ月に1回作動点検を行う。
- (5) 屋内消火栓設備は、公設消防隊が使用するもので、消防隊専用栓とも呼ばれる。

問題 138 ガス及びガス設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 都市ガスの中圧供給方式とは、供給圧力が1.0～3.0 MPaのことをいう。
- (2) LPガスは、都市ガス（13A）に比べて2倍以上発熱量が高い。
- (3) ガス事業者が行うガスの消費機器の調査は、ガス事業法に基づく法定点検項目である。
- (4) 低圧供給方式の供給圧力は、都市ガス（13A）の場合、1.0～2.5 kPaである。
- (5) 日常点検として、ガス漏れ警報器が所定の位置に設置されていることを確認する。

問題 139 BOD 及び BOD の測定に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 測定に要する期間は5日間である。
- (2) 培養温度は30℃とする。
- (3) BODとは、水の汚濁状態を表す有機汚濁指標の一つである。
- (4) 水中の溶存酸素量の変化を測定する。
- (5) 測定は大気圧下で行う。

問題 140 下水道法施行令第8条の排水設備の設置及び構造に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 排水管の内径及び排水渠^{きょ}の断面積は、地方公共団体が条例で定める。
- (2) 便所系統からの排水を含む汚水を一時的に貯留する排水設備について、臭気に関する措置を講ずる。
- (3) 汚水を排除すべきます又はマンホールにあっては密閉できる蓋^{ふた}を設ける。
- (4) 排水設備は、堅固で耐久性を有する構造とする。
- (5) 便所系統からの排水を含む汚水を排除すべき排水渠は、開渠とする。

問題 141 建築物における衛生的環境の確保に関する法律又は医療法における清掃に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 病院清掃を外部に委託する場合には、医療法に規定された基準を満たしている業者に委託する。
- (2) 外壁の清掃は建築物環境衛生管理基準に含まれる。
- (3) 建築物環境衛生維持管理要領において、清掃用機械及び器具類並びに清掃用資材の保管庫は、6カ月以内ごとに1回定期的に点検する。
- (4) 建築物清掃業の登録基準として、監督者や従事者などの人的基準が定められている。
- (5) 建築物環境衛生維持管理要領により、所有者等は廃棄物の分別ができる環境を整備し利用者へ分別を促す。

問題 142 清掃作業計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) トイレ・洗面所の換気口の除じんは、日常清掃で実施する。
- (2) 日常清掃で除去する汚れと定期的に除去する汚れを区別し、作業を計画すると作業成果の向上が得られる。
- (3) 突発的あるいは臨時的に発生する臨時清掃は、通常の作業計画とは別途に取り扱い対処する。
- (4) 作業計画の作成には、作業量要因数と作業標準時間を調べ個々の作業時間を算出する。
- (5) 管理用区域は、一般の人が立ち入らないため、汚れの量が少ない。

問題 143 清掃の作業手順書に関する次の文章の 内に入る語句として、最も適当なものはどれか。

作業手順書とは、一つ一つの作業のマニュアルである。作業名、行うべき作業項目、作業手順、、注意事項、作業終了後の品質状態等を記載したもので、従事者に対する教育指導のために使用する。

- (1) 作業計画の作成方法
- (2) 作業実施記録の書き方
- (3) 作業スケジュールの管理方法
- (4) 組織管理体制
- (5) 使用資機材と数量

問題 144 清掃作業の評価に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 清掃業務の精度を向上させることは、品質評価の目的の一つである。
- (2) 管理者などが点検評価を行う場合は、3カ月以内に1回実施するよう計画する。
- (3) 作業の改善点は、仕様書や作業基準表に限定しないで見出す必要がある。
- (4) 組織品質の良否は、同一の仕様であっても作業品質の良否に影響を及ぼす。
- (5) きれいさの評価は、主として測定機器（光沢度計など）を用いて行う。

問題 145 ほこりなどの粒子の大きさ（平均径）を比較した組合せとして、最も不適当なものは次のうちどれか。

- (1) 花粉 > 人体・衣類からの発じん
- (2) 住居内堆積じん（床面） > 肺を害する粒子
- (3) 持込み土砂 > 浮遊粉じん
- (4) たばこ煙 > 真菌
- (5) 一般砂 > 清掃による発じん

問題 146 予防清掃などに関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

- (1) 高气密化している現代の建築物では、窓やすき間がほこりの侵入路として重要である。
- (2) 汚れは、平滑緻密な表面には付着しやすい。
- (3) 建材の選択に当たっては、清掃の立場も考慮して選ぶ。
- (4) 疎水性の建材には、油溶性の物質が付着しにくい。
- (5) 予防清掃としての建材の加工改良は、人為的原因の汚れだけに対して効果がある。

問題 147 建築物清掃における環境対策に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 床洗浄作業に使用する床維持剤などにより発生した揮発性有機化合物を除去するには、強制換気が有効である。
- (2) 廃液として排水した後の分解性は、どの種類の洗剤でも同じである。
- (3) 厚生労働省は、室内空気を汚染する可能性のある代表的な揮発性有機化合物の室内濃度指針を定めている。
- (4) パッドやブラシは、汚れの状況により研磨剤の種類や量を考慮して選定する。
- (5) 下水道法で定められている排水基準に加え、地方公共団体が排水基準値を定めている場合があるので確認する必要がある。

問題 148 繊維床材の清掃に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

- (1) スチーム洗浄機は、噴射吸引式機械（エクストラクタ）より、洗浄後、カーペットに残留する水分量が多い。
- (2) 噴射吸引式機械（エクストラクタ）は、カーペット洗剤液を直接噴射し洗浄した後、別の真空掃除機によって吸引除去する。
- (3) 洗剤供給式床磨き機は、化学繊維のタフテッドカーペットの洗浄に適している。
- (4) パウダー方式は、カーペット上に洗剤の泡を散布した後、洗浄し、直ちに吸引する方式である。
- (5) ローラブラシ方式の機械は、ブラシが回転し、洗剤がカーペットのパイルにこすりつけられて発泡し洗浄する方式である。

問題 149 床磨き機に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 自動床洗浄機は、洗剤液を入れるタンクと回収液を入れるタンクを備えている。
- (2) 超高速床磨き機は、通常、カーペット用シャンプークリーニングを行うことができる。
- (3) ブラシは、シダの茎又はナイロンを植え付けられたものが普通であるが、ワイヤブラシを用いる場合もある。
- (4) 1 ブラシ式の床磨き機で使用する床用ブラシの回転数は、一般に毎分 150 ～ 300 回転位である。
- (5) 床磨き機に使用する床用パッドは、一般に化繊製フェルト状の不織布に研磨粒子が組み込まれて作られている。

問題 150 洗剤に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

- (1) 洗剤の助剤は、界面活性剤の表面張力を高めて洗浄力を向上させる。
- (2) 表面洗剤は、洗浄力に富み、泡立ち性も優れている。
- (3) 洗剤の主剤である界面活性剤には、陰イオン系、陽イオン系、非イオン系、両性系がある。
- (4) 合成洗剤は、硬水中ではその洗浄効果が著しく低下する。
- (5) 洗剤の助剤には、主としてリン酸塩が用いられている。

問題 151 床維持剤に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) フロアオイルは、鉱油を主体とし、常温で液体のものをいう。
- (2) フロアポリッシュは、床の保護と美観の向上の目的で使用される。
- (3) 油性フロアポリッシュは、ろう状物質、合成樹脂等を有機溶剤に溶解又は分散させたものである。
- (4) 乳化性フロアポリッシュは、ろう状物質、合成樹脂等の不揮発性成分と有機溶剤を水に乳化させたものである。
- (5) フロアシーラは、乾燥後に皮膜を形成し、物理的・化学的方法により容易に除去できる。

問題 152 清掃に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) カーペットパイル上部の汚れの除去には、拭き取り方式が用いられる。
- (2) トイレの便器に付着している尿石を除去するときは、酸性洗剤を使用する。
- (3) カーペット洗剤は、繊維に悪影響を与えない中性が適している。
- (4) リノリウムは、アルカリ性洗剤に弱い。
- (5) テラゾに付着している鉄分を含んだ水あかを除去するときは、酸性洗剤を使用する。

問題 153 清掃作業に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) ステンレスに塗布したクリアラッカは、3～5年間で黄変する。
- (2) 階段の壁面は、他の共用区域の壁面と比較して、ほこりの付着量が多い。
- (3) 天井などの高所の汚れは、たばこタール質、微細な粉じん等の汚れが多い。
- (4) エレベータのインジケータ周りや扉の汚れは、水溶性の汚れより、油溶性の汚れが多い。
- (5) 空気調和用の吹出口などは、ほこりが付着しやすいので、年に1～2回の清掃が必要である。

問題 154 外装の清掃に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

- (1) 金属材は、大気や酸性雨にさらされるので、汚れが軽度のうちに行う。
- (2) 窓ガラスの清掃回数は、よごれの固着を防止するため、1～2年に1回行うとよい。
- (3) 自動窓拭き設備には、スチーム洗浄機が組み込まれている。
- (4) ガラスに貼ったフィルム面の洗浄は、研磨剤入り洗剤でフィルム面を洗浄する。
- (5) 自動窓拭き設備は、人の作業に比べクリーニングの仕上がりが良い。

問題 155 平成 17 年度における全国の一般廃棄物の排出及び処理状況等（平成 19 年 4 月 16 日環境省報道発表資料）において、直近の傾向に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) リサイクル率は、3 年以上増加傾向が続いている。
- (2) 総排出量は、3 年以上減少傾向が続いている。
- (3) 最終処分量は、3 年以上横ばい傾向が続いている。
- (4) 総資源化量は、3 年以上増加傾向が続いている。
- (5) 1 人 1 日当たりの排出量は、3 年以上減少傾向が続いている。

問題 156 平成 17 年度の産業廃棄物の総排出量（平成 20 年 1 月 24 日環境省報道発表資料）に関して、排出量が最も多い業種は次のうちどれか。

- (1) 農業
- (2) 電気・ガス・熱供給・水道・下水道業
- (3) 建設業
- (4) 鉄鋼業
- (5) 化学工業

問題 157 産業廃棄物のマニフェスト制度の目的に関する次の語句として、最も適当なものは次のうちどれか。

- (1) 減量化促進
- (2) 移動管理
- (3) 資源化促進
- (4) 収集効率化
- (5) 省エネルギー

問題 158 食品廃棄物に関する次の文章の 内に入る語句として、正しいものはどれか。

食品循環資源の 等の促進に関する法律が平成 12 年 6 月に制定され、平成 13 年 5 月に施行された。

- (1) 資源化
- (2) 分別収集
- (3) 再商品化
- (4) 再生利用
- (5) 有効利用

問題 159 空気調和設備等の維持管理及び清掃等に係る技術上の基準（平成 15 年厚生労働省告示第 119 号）に基づく建築物内廃棄物処理に関する次の文章の 内に入る語句として、正しいものはどれか。

廃棄物の収集・運搬設備、貯留設備その他の処理設備について、定期に点検し、必要に応じ、補修、 等を行うこと。

- (1) 管理
- (2) 整備
- (3) 消毒
- (4) 洗浄
- (5) 改善

問題 160 事業活動に伴って生じる次の建築物内廃棄物のうち、産業廃棄物に該当するものはどれか。

- (1) 割りばし
- (2) 紙くず
- (3) 生ごみ
- (4) 発泡スチロール
- (5) 繊維くず

問題 161 1 日当たり 6 m^3 、5 日間で 6.0 t 排出される廃棄物の容積質量値として、正しいものは次のうちどれか。

- (1) 20 kg/m^3
- (2) 25 kg/m^3
- (3) 100 kg/m^3
- (4) 200 kg/m^3
- (5) 250 kg/m^3

問題 162 建築物内廃棄物の収集・運搬用具に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 吸殻の収集は、発火確認のため、ふたなしの金属製の容器が用いられる。
- (2) 紙くず類の収集は、キャンバス製コレクタが用いられる。
- (3) 収集・運搬用具は、安全で衛生的で手入れのしやすいものを使用する。
- (4) 収集・運搬用具は、各階の廃棄物の排出量、種類、実態に応じて整備する。
- (5) ちゅう芥の収集は、悪臭防止などのため、ふた付きのポリバケツやステンレス製のコレクタが用いられる。

問題 163 建築物内廃棄物の貯留・搬出方式に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) コンパクト・コンテナ方式は、容器方式より防災性に優れている。
- (2) 真空輸送方式は、容器方式より衛生性に優れている。
- (3) 貯留・排出機方式は、コンパクト・コンテナ方式より大規模建築物に適用される。
- (4) 貯留・排出機方式は、真空輸送方式より初期コストがかからない。
- (5) コンパクト・コンテナ方式は、容器方式より作業性に優れている。

問題 164 建築物内における廃棄物の種類と中間処理方法との組合せとして、最も不適当なものはどれか。

廃棄物の種類	中間処理方法
(1) 新聞紙	粉砕
(2) 缶	圧縮
(3) OA 紙	梱包
(4) びん	破砕
(5) プラスチック	圧縮

問題 165 建築物内廃棄物の最終集積所に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 出入口には自動ドアを設ける。
- (2) 種類ごとに分別して収集・保管できる構造とする。
- (3) 第1種換気設備を設ける。
- (4) 通路に段差を設ける。
- (5) 密閉区画構造とする。

問題 166 蚊に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) コガタアカイエカは、水田などで発生し、ブタ、ウシ、ヒト等から吸血する。
- (2) ヒトスジシマカは、都市部の住宅街や公園などで発生し、夏期に激しくヒトから吸血する。
- (3) アカイエカは、九州から北海道まで広く分布し、ヒトや野鳥等から吸血する。
- (4) シナハマダラカは、雨水ますなどで発生し、ヒトから吸血する。
- (5) チカイエカは、建築物内の地下などで1年中発生し、ヒトから吸血する。

問題 167 建築物内の蚊の防除に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 樹脂蒸散剤は、浄化槽のような密閉空間で成虫防除に効果を発揮する。
- (2) 浄化槽に殺虫剤を処理する場合は、クレゾールなどの殺菌剤を含有する製剤を使用する。
- (3) 排水槽内の成虫の発生状況は、粘着トラップによる捕獲数で調査する。
- (4) 成虫防除に用いられる ULV 処理は、残効性が期待できない。
- (5) 排水槽内の幼虫の生息状況は、柄杓^{ひしやく}などですくい取られた数により調査する。

問題 168 ゴキブリに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) チャバネゴキブリの雌は、卵鞘^{しやう}を唾液などでくぼみやすき間に固着させる。
- (2) 屋内で見られるゴキブリ類は、フェロモンの働きにより集合性を示す。
- (3) クロゴキブリは、卵から成虫まで発育するのに1年以上を要する。
- (4) トビイロゴキブリの日本における分布は、局地的である。
- (5) 成虫と幼虫は、同じ餌^{えさ}を摂取する。

問題 169 ゴキブリの防除に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

- (1) 有機リン剤は、ゴキブリ類に対してフラッシング効果を示す。
- (2) 毒餌^ど処理は、速効性が期待できる。
- (3) ULV 処理には、専用の油剤を使用する。
- (4) ローチスポットは、薬剤処理を行う場所の目安となる。
- (5) 7か所に3日間設置した粘着トラップに捕獲されたゴキブリの総数が210匹であった場合のゴキブリ指数は30である。

問題 170 ダニ類に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

- (1) マダニ類は、他のダニ類やチャタテムシなどを捕食する。
- (2) 屋内塵^{じん}に生息するダニ類の中で、優占率の高いダニ類はツメダニ類である。
- (3) 屋内塵には、ヒョウヒダニ類やコナダニ類の栄養となる有機物が含まれている。
- (4) ヒゼンダニは、ヒトに外部寄生する。
- (5) 建築物内に置かれている鉢植えの植物には、ワクモが寄生することがある。

問題 171 ダニの被害と防除対策に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 吸血性のダニ類の被害を受けた場合には、周辺にヒト以外の宿主となる動物がいる可能性が高い。
- (2) ヒゼンダニによる被害は、高齢者福祉施設や病院等で起こりやすい。
- (3) ツメダニ類による被害は、その数が屋内塵^{じん} 1 g 中 100 匹を超えると顕著になる。
- (4) カベアナタカラダニは、建築物の外壁などに多数が歩き回るため、人に不快感を与える。
- (5) ツメダニ類の被害対策には、除塵よりも殺虫剤処理の方が効果的である。

問題 172 建築物内で発生する害虫に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) チョウバエ類の主な発生源は、ちゅう房の生ごみである。
- (2) ゴキブリが夜間の特定の時間帯に活動するのは、体内時計の働きによる。
- (3) ヒラタキクイムシは、家具の害虫として知られている。
- (4) 近年、トコジラミによる吸血被害がホテル、旅館等の宿泊施設から報告されている。
- (5) シバンムシアリガタバチの幼虫は、シバンムシの外部寄生虫で、成虫は人を刺すことがある。

問題 173 害虫に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) ネコノミは、イヌにも寄生する。
- (2) ノシメマダラメイガは、観葉植物から発生する。
- (3) ユスリカ類は、屋内のプールで発生することがある。
- (4) チャタテムシ類は、高温・多湿時に大発生することがある。
- (5) イエヒメアリは、室内に巣をつくり、昼夜を問わず活動する。

問題 174 殺虫剤に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

- (1) 粉剤は、水に懸濁させて散布する。
- (2) ゴキブリ用の殺虫剤は、全て医薬品又は医薬部外品として薬事法による承認を受けている。
- (3) いずれの昆虫成長制御剤（IGR）も、表皮形成阻害活性を示す。
- (4) ピレスロイド剤は、魚毒性が低い。
- (5) LD₅₀ の値が大きいほど、殺虫力が強い。

問題 175 ネズミの生態に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) ハツカネズミは農村や港湾地域に分布しており、建築物では少ない。
- (2) ネズミ類は、高圧変電器に触れて停電の原因となることがある。
- (3) クマネズミは、植物質の餌を好む。
- (4) ドブネズミは警戒心が強く、毒餌やトラップによる防除が困難である。
- (5) クマネズミは、運動能力に優れ、垂直な壁や電線を伝わって屋内に侵入する。

問題 176 ネズミの防除に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 殺鼠剤を用いることが、防除の基本となる。
- (2) 生息状況調査を行う際には、証跡を確認することが重要である。
- (3) 全ての殺鼠剤は、製剤を経口的に体内に取り込ませることを目的として製造されている。
- (4) 忌避剤であるカブサイシンは、ケーブルなどのかじり防止などの目的で使用される。
- (5) 侵入を防ぐために、通風口や換気口に取り付ける金属格子の目の幅は1 cm 以下にする。

問題 177 衛生動物と疾病に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) ネズミ類は、レプトスピラ症を媒介する。
- (2) ヒョウヒダニ類は、小児喘息の原因となる。
- (3) マダニ類は、発疹チフスを媒介する。
- (4) ヒトスジシマカは、チクングニア熱の媒介蚊である。
- (5) コガタアカイエカは、日本脳炎の媒介蚊である。

問題 178 防虫・防鼠構造並びに機器に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) ULV 機は、低濃度の薬剤を100 μ m 前後の粒子にして、均一に噴射する機器である。
- (2) 建築物における衛生的環境の確保に関する法律に基づく特定建築物の防虫・防鼠構造は、建築基準法の規定に基づき、保健所長による審査が行われる場合がある。
- (3) 昆虫の屋内侵入防止には、窓などに20 メッシュ以下の網戸を設置すると良い。
- (4) 煙霧機は、殺虫剤の油剤を気化させて、室内空間に飛んでいる害虫の駆除を目的として使用する。
- (5) 防虫・防鼠構造は、建築物の新築時に設計段階で取り入れるべきものである。

問題 179 作業の安全管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 毒餌は、食品取扱い場所、子供やペットがいる場所では、毒餌箱に入れて配置する。
- (2) 調査には通気性の良い手袋を用い、薬剤の取扱いには耐有機溶媒性のある手袋を用いる。
- (3) 殺虫剤の油剤や乳剤の多くは、消防法で定める危険物の第4類第2石油類に相当する。
- (4) エアポンプが使用されている観賞魚用水槽がある場所では、薬剤の空間処理を控える。
- (5) 配電盤に殺虫剤を処理する場合には、水和剤を用いる。

問題 180 IPM（総合的有害生物管理）に基づく防除を実施する場合の留意点に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 人や環境に対する影響を可能な限り少なくするように配慮する。
- (2) 有効かつ適切な防除法を組み合わせて実施する。
- (3) まずは、発生時対策を行う。
- (4) 食毒剤の使用に当たっては、誤食防止を図るとともに、防除作業終了後、直ちに回収する。
- (5) 薬剤散布後、一定期間入室を禁じて、換気を行うなど利用者の安全を確保する。